

秋の星空

【児童センター秋の星空 11月号】

11月の季節は晩秋といいますが、関東地方では木の葉が色づき紅葉の季節になります。11月になると天候も落ち着き（秋雨前線の関係）星を見る機会が増えてきます。

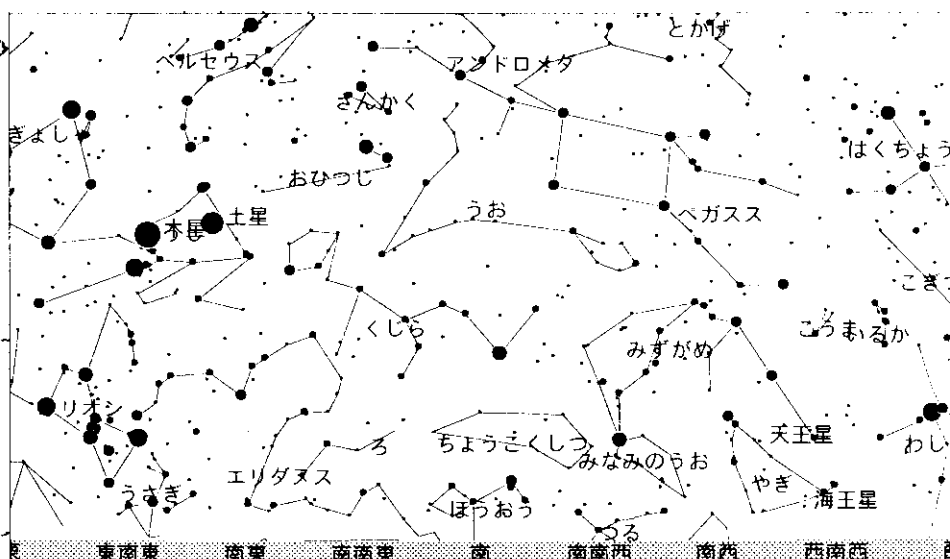
天空をおおう、秋の四角形（ペガサスの四辺形）やアンドロメダ銀河のあるアンドロメダ座が天頂に姿を現します。このアンドロメダ銀河までの距離は約230万光年離れていますが、私たちの住んでいる銀河系宇宙のすぐ隣にある宇宙です。暗く透明度の良い場所では肉眼や双眼鏡で楽しむことができます。

夜半を過ぎる頃、いよいよ“おうし座”をはじめとする冬の星座が東の空から登ってきます。おうし座の中には、明るく輝く木星、すぐ近くに土星があります。

<11月の星空カレンダー>

- 4日（土）●上弦
- 7日（火）立冬
- 12日（日）○満月
- 19日（日）●下弦
- 26日（日）●新月

右の星図は、11月中旬夜9時ごろ、南の方向を中心に見た星空です。



☆☆☆☆☆

《天文現象》

☆しし座流星群

11月になるとここ何年間“しし座流星群”の話題が登場します。11月17日深夜から明け方にかけて、東天より流れ星が飛びます。しかし、下弦に近い月明かりがあるので、夜空全体が明るくなり条件としてはよくありません。方向の目安として18日の明け方東の空、月のやや下から流れ星が飛びます。

☆宵の明星の金星が夕方の西空に明るく輝きます。

日没時の高度も20度を越え、夕焼けの空の中で目立つ存在となります。

